



くすの木 県立図書館だより

開館40周年記念特集号

第
82
号

平成27年3月発行
兵庫県立図書館
〒673-8533 明石市明石公園1番27号

TEL(078) 918-3366
レファレンス専用 918-3377
<http://www.library.pref.hyogo.lg.jp>
http://www.library.pref.hyogo.lg.jp/i_top.html

兵庫県立図書館では、今年度で開館40周年を迎える。図書館が単に本を貸し出し、人と本が出会う場所だけではなく、様々な図書館活動を通じて、ネットワークが拡大し、県民のあらゆる世代が知で結ばれ、交流し、創造活動や実践活動につながるよう、知とネットワークと創造の拠点となる未来型図書館の実現に向けて取り組んでいます。40周年記念事業として、本の寄贈運動やふるさとひょうご特別展示、ふるさと防災特別展示等を開催しました。その一端を紹介します。

阪神・淡路大震災20年・兵庫県立図書館40周年記念事業 防災フォーラム「小泉八雲朗読の夕べ」



11月23日(日)に阪神・淡路大震災20年と兵庫県立図書館40周年の記念事業として「兵庫県立図書館発!防災フォーラム 小泉八雲朗読の夕べ」を兵庫県公館で開催。これは兵庫県立図書館から「防災」を発信する取組みで、俳優の佐野史郎さん、ギタリストの山本恭司さん、八雲のひ孫で島根県立大学短期大学部教授の小泉凡さんをゲストとしてお招きし、朗読ライブ「望郷～失われることのない永遠の魂の故郷」と防災講演「八雲のこころと防災」を開催し、400人を超えるみなさまに伝えることを通しての防災の大切さと八雲の世界を感じていただきました。

ふるさと防災特別展示関連講座

1月25日(日)と1月31日(土)には関連講座「小泉凡講演会×朗読ライブ」を開催しました。25日の朗読講談「小泉八雲の生き神」では、県立図書館ビブリオ堂ちんげんさいとサンダリンによる朗読講談を行い、元ラジオ関西アナウンサーの牛尾淳さんに陳舜臣さんの作品を朗読していただきました。また、31日には小泉八雲の曾孫にあたる小泉凡さんを講師としてお招きし、防災講演「八雲のこころと防災学習」と題して講演をして頂きました。どちらも盛況で、防災について今後も未来に継続的に伝えていかなくてはいけないという思いを再認識しました。



兵庫県立図書館開館40周年記念 ふるさとひょうご特別展示



クロダ・カンベッチョナイ

●軍師 黒田官兵衛展

特別展示の第1弾として、昨年に引き続き「黒田官兵衛」を取り上げました。今回は、書籍約500冊とあわせて関連作品を展示。福岡県在住の兜師・福田弘氏が制作された黒田家の「朱漆塗合子形兜」、信長や家康の兜5点をはじめ、播州・黒田武士の館所蔵の「黒田官兵衛書状 慶長6(1601)年10月10日馬杉喜右衛門あて」、県立図書館ビブリオ堂制作の大型方言講談絵本「カンベッチョナイものがたり」やその原画展等を通じて官兵衛の魅力を紹介しました。

また、4回連続で講座を実施。「ふるさとひょうご官兵衛自慢」と題した県内ゆかりの5地域(御着、広峰、志方、西脇、宍粟)による発表と情報交換会などを開催し、多様な視点から官兵衛について深く掘り下げました。時宜に適った内容で、利用者の関心も高く、ひょうごゆかりの人物や歴史について、来館者が学び、親しむ機会となりました。



●タヨウ星人のいきもの大百科事展

タヨウ星人のいきもの大百科事展では、当館所蔵の図書、昆虫や石の標本、いきものフィギュア、ゾウの描いた絵、ドジョウ等のいきもの展示、生物多様性に関するパネルなどを展示し、いきものの不思議さや生物多様性の大切さを紹介。あわせて案内キャラクターのタヨウ星人の原画展も開催しました。



関連講座として、自由研究大応援!と題して、兵庫県立人と自然の博物館と(公財)兵庫県園芸・公園協会の協力を得て、明石公園の植物やいきものに関する4講座を行い、みんなでつくるいきものマップ等を完成。そして、本のピクニック!「いきもの本モノものがたり」では、本に囲まれた空間で植物学者岩槻邦男先生にいきものの本と本物のいきものにまつわるお話をいただきました。豊かな自然環境にある県立図書館から生物多様性の大切さをこれからも発信していきたいと思います。



●アートショカン!!展

アート系の大学、高専、高校の学生たちの作品と図録などのアート関連本とのコラボ展示を行いました。閲覧室やロビーなどあらゆる空間がアートで埋め尽くされ、図書館が“アートショカン”に変身。神戸芸術工科大学アート・クラフト学科はフィギュアや陶芸など、明石工業高等専門学校

は小惑星探査機「はやぶさ2」のエンジン模型やエコカーなど、明石高校美術科は絵画や彫塑、素描などを、提供いただき、本とあわせた現代アート空間を県立図書館が演出しました。ロビーでは三田祥雲館高校美術部の「絵を読む」と題した絵画とそれにまつわるショートストーリーと一緒に展示しました。そして、県立施設の過去の展覧会のポスターや館外巡回イベントで遠阪小学校(丹波市)の児童が講談「カンベッチョナイものがたり」を聞き、イメージして描いた絵なども館内を彩りました。また、10月11日(土)には、関連講座として「ふるさとひょうごをアートする」を開催し、県立人と自然の博物館の中瀬勲館長にご講義いただきました。



●ふるさと防災特別展示

11月21日(金)から3月29日(日)までふるさと防災特別展示を開催しています。この展示では、阪神・淡路大震災20年を契機に、『稻むらの火』の原作『生き神』を神戸で書き、「時空を超えた真理」を未来に向け発信した小泉八雲(～2/18)、震災から10年に渡り毎年1月17日に被災地神戸の現場から伝え続けた筑紫哲也さん(～3/18)、兵庫ゆかりの作家で震災9日目に「神戸よ」のメッセージを発信し、その後も文学で震災を伝えてこられた陳舜臣さん(～3/29)の作品やゆかりのモノを通して「未来にツタエル。」をテーマに100年前から現在、未来へと伝えていくべき“こころ”を展示しています。



館外巡回イベント「カンベッチョナイものがたり」

兵庫県立図書館では開館40周年を機に館外巡回イベントとしてふるさとひょうご特別展示で展示したモノや、自由研究大応援!の講座など、県立図書館から館外へモノや講座をセットにして巡回し、あわせて、県内のミュージアムと連携して行うミューブラリー事業など様々なアウトリーチ活動を展開しています。

の中でも、当館で作成した、大型方言講談絵本「カンベッチョナイものがたり」は、講座と本をセットにして遠阪小学校等の学校や、三田市立図書館等の市町立図書館など様々な場所で、絵本の原画展とあわせて巡回展示し、大人気を博しました。

秋には大型方言講談絵本の第2弾「カンベッチョナイの時空風土記」を完成し、第1弾と同様に館外で巡回展示し、好評でした。小学校で行った講座では、講談でイメージ



をしたキャラクターを子どもたちが絵に描いたり、播磨国風土記に登場する地名を使った地理の学習をしたりと様々なバリエーションで講座を行いました。その他にもいきものフィギュアなど特別展示で展示したモノを本と講座のセットで巡回展示し、図書館が継続的な学習の場となるよう取り組みを進めています。



●「読書講演会」

10月26日(日)に世界的権威の靈長類学者で児童文学作家の河合雅雄先生をお招きし、読書講演会「児童文学学者 草山万兎とは誰か?」を開催しました。ビブリオ堂ちんげんさいの講談「カワイマサオものがたり」の講師紹介で始まり、講義では、河合先生の病気がちだった子ども時代に体験した丹波の自然とのふれあいや、当時の一流作家の書いた児童文学を数多く読んだ体験などを交えながら、「平均寿命がいくら伸びても、子ども時代の時間は昔も今も同じである。昔よりも長くなったり人生を豊かに過ごすためにも、子ども時代を大切にして、たくさん自然にふれ、よい本を読むことが大切だ」と語られました。

兵庫県立図書館開館40周年記念寄贈キャンペーン

平成26年4月より「開館40周年記念寄贈キャンペーン」を展開し、兵庫県にゆかりのある本を中心に、多くの県民の皆様をはじめとし、神戸高校・明石高校等の県立高校からも寄贈いただきました。その他に夏のクールスポットで閲覧室を開放した際に株式会社増進堂受験研究社から、受験応援コーナーの図書を、また株式会社海洋堂からは特別展示用にいきものフィギュアをいただくなど、あわせて約3万冊もの寄贈をいただきました。

また、このたびの寄贈キャンペーンで、わたせせいぞう氏、陳舜臣氏、高嶋哲夫氏、たかいよしかず氏、黒岩重吾氏、玉岡かおる氏、尾崎美紀氏、小泉凡氏、岩楓邦男氏、木村重信氏等兵庫ゆかりの作家・研究者の方々から、著書などを特別にご寄贈いただきました。まだまだこれからの方々に寄贈いただく予定となっています。



ふるさとひょうご情報室リニューアルオープン

平成26年10月1日に、これまでみなさまにご利用いただいてきた郷土資料室をリニューアルし、「ふるさとひょうご情報室」として新たにスタートしました。

この部屋では、ふるさとひょうごに関する調査研究に必要な、市町村誌・統計資料・行政資料などに加え、「兵庫ゆかりの作家コーナー」「兵庫が舞台の作品コーナー」などの新しいコーナーを展開しています。また、上記の「開館40周年記念寄贈キャンペーン」でご寄贈いただいた資料を、順次「40周年記念寄贈本コーナー」に配架していきます。



● ふるさとひょうご何でも図書館展

平成27年2月20日(金)から5月20日(水)まで、「ふるさとひょうご何でも図書館展」を開催し、今回の寄贈運動で収集したふるさとひょうごに関する資料や寄贈いただいた本などを展示しています。兵庫ゆかりの文学者や研究者のコーナー、絵本や児童書、コミックや漫画のコーナー、古い絵はがきや写真のコーナー等を設置し、県立図書館が「ふるさとひょうご」意識を高める知の拠点となることを目指します。



● 子ども読書活動スキルアップ講座

子どもの読書推進に関心のある方を対象に、さまざまな視点で読書活動のヒントを提案する3講座を開催しました。

1回目は、10月28日(火)『本モノBar。~本を活かした空間づくり~』と題し、県立図書館ビブリオ堂ちんげんさいが、県の社会教育行政から人と自然の博物館など18年にわたる文化行政の経験談やちんげんさい活動等から本、モノ、ヒトでの空間づくりについてお話をしました。2回目は、11月13日(木)に『言葉のチカラ、イメージのチカラ。』と題し、「けいはんのる人おけいはん」などで活躍中のコピーライター・クリエイティブディレクターの田中有史氏に、コピーライターの仕事の基本やアイディアを形にする方法などをご講義いただきました。

3回目は、12月4日(木)に『ほんやりする。』と題し、B&Bの「もみじまんじゅう」のギャグで一世を風靡した放送作家・漫才台本作家の中谷勝氏に、笑いの効能や5つのパターン、自分の言葉がどのように生まれてくるのかといったお話を伺いました。今までにない、新たな視点で読書活動を考える機会となりました。

